

項目		説明
試料・情報の 利用目的 及び 利用方法	研究課題 名	食道癌に対する食道切除後の筋肉量減少が予後に与える影響
	研究目的	近年、術前のサルコペニアが食道癌術後の予後に影響するという報告が散見される。しかし術後の筋肉量の減少が予後に与える影響に関する報告は少ない。術前と比較し術後には治療介入による改善の余地が多いため、術後の筋肉量減少が予後に与える影響を明らかにすることは重要である。今回我々は食道癌に対する食道切除術から退院までの筋肉量の減少が予後に与える影響を後方視的に検討する。
	研究対象 者	2011年9月から2015年7月まで食道癌に対し、右開胸食道切除術を施行し治癒切除がなされた症例のうち、特殊組織型、在院死亡、T4 または Stage IV (TNM-UICC 第7版)を除いた159例を対象とする。筋肉量は術直前および退院時に測定し、筋肉量減少率を算出する。中央値をカットオフ値として低減少群と高減少群と定義し患者背景、筋肉量減少と長期予後について検討する。
	研究期間	西暦 2020年1月16日 ~ 西暦 2024年3月31日
利用する試料・情報の 項目 (チェック[X]が入った項目 を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報 の管理につ いての責任 者	当センター — 研究責 任者	大島貴
試 料・情 報を 利用 する 者の 範囲	当センターでの実 施診療科/部局等	消化器外科 胃食道
	共同研究の場合、 共同研究機関およ び各施設での研究 責任者	なし